

認知症の人を支える近所の心遣い

65歳以上の4人に1人が認知症またはその予備軍と言われています。あなたの家族、近所の人、あなた自身も認知症になるかもしれません、認知症の人が身近にいることが普通になってきます。ある日、こんな体験をした人がいます。

ある朝、隣の一人暮らしのおばあさんがゴミ袋を持ってステーションに歩いていくのを見かけました。「おばさん、今日はゴミの日じゃないよ」と声をかけると、「あら、今日は火曜日じゃないの?」と尋ねられました。その時は間違えたのかなと思いましたが、その後も何度か収集日ではない日にゴミ出しをする姿を見かけました。近所でも話題となり、隣組で相談した結果、自分がゴミを出すついでに、順番でおばあさんに声をかけることになりました。



おばあさんには、曜日を忘れてしまうなど認知機能の低下が見られます。曜日を忘れてしまうため、収集日にゴミを出すことが難しくなりましたが、自分でゴミを出すことは出来ます。

このままでは、おばあさんはルールを守らない困った人、と近所の人に思われてしまったかもしれません。けれど、近所の人々の心遣いと声かけのおかげで、収集日にゴミを出すことが出来ました。おばあさんは、まだこのまちで暮らすことが出来そうです。こんな素敵な心遣いのできる人が増えたら、誰にとっても安心して暮らせるまちになりますね。

あなたは、自分がもし認知症になったら、どんな暮らしをしたいと思いますか。「できることは自分でしたい」「周りに迷惑をかけたくない」「今までどおりの暮らしをしたい」。人によって様々な思いがあると思います。「認知症とともに、自分らしくこのまちで暮らしたい」。そんな思いを叶えられるまちを、一緒につくっていく力を必要としています。まずは認知症の人の思いや暮らしについて、知ることから始めてみませんか。



認知症理解促進講演会

認知症とともに 自分らしく暮らせるまちに

日 時 2月23日(日) 13時30分～15時30分(13時開場)

会 場 雁宿ホール 講堂

内 容 半田市認知症施策の紹介と認知症介護に関する講話

申込み 電話、FAX、Eメールにて高齢介護課まで

講 師 (株)大起エンゼルヘルプ 取締役 和田 行男 氏



プロフィール

介護事業の枠組みにとらわれることなく、「人として生きることを支援するとはどういうことか」を一貫して追いかけている認知症介護のスペシャリスト。NHK Eテレ「らくらくワンポイント介護」、みんなの介護「木曜和田劇場」に出演中。「大逆転の痴呆ケア」などの書籍の執筆や、自身が企画したプロジェクト「注文をまちがえる料理店」など、認知症の理解を深める活動を精力的に行っている。

【問合わせ】 高齢介護課 ☎84-0644